Information　役場福祉課

国民健康保険にご加入のみなさんへ

特定健康診査、若年者健康診査を追加実施

町では、例年７月から11月に健康診査を実施しており、今年度も国民健康保険加入者の方を対象に、集団健診を追加で実施します。今年度から、受診には事前の申し込みが必要ですので、右の二次元コードまたは電話でお申し込みください。

受診された方には記念品のプレゼントがあるほか、今年度健康診査を受診された方の中から、抽選で町商工会共通商品券を進呈します。

今年度最後の機会ですので、健康診査を受けられていない方は、ぜひご受診ください。

申込フォーム

【日時】 １月30日（金）午前９時～10時30分
【場所】 まなびの郷
【対象】 令和８年１月30日時点での国民健康保険加入者（18歳～74歳）で、今年度健康診査の案内が届いているが未受診の方
【持ち物】 受診券（40歳以上のみ持参）、質問票、資格確認書など
▶詳しくは、今月の広報きほうに折り込みのチラシをご確認するか、役場福祉課健康診査係（☎３３－０３１０）までお問い合わせください。

Information　役場税務住民課

２月２日（月）までに申告してください

償却資産の申告をお願いします

事業を行っており、償却資産（事業用資産）を所有されている方は、地方税法第383条の規定により、毎年１月１日現在に所有している資産を、設置している市町村へ申告する必要があります。

※償却資産とは、土地・家屋以外の事業の用に供することができる資産（構築物、機械および装置、船舶、車両および運搬具、工具･器具、備品など）です。

【申告対象者】 １月１日現在で紀宝町において、償却資産を所有されている方
【提出物】 償却資産申告書
※資産に異動がある場合は種類別明細書も必要
【申告期限】 ２月２日（月）
▶詳しくは、役場税務住民課（☎３３－０３３７）までお問い合わせください。

Information　東海労働金庫熊野支店

勤労者の生活安定と福祉向上のために

勤労者向け協調融資制度のご案内

東海労働金庫では、勤労者の負担軽減のため、町教育委員会と協調して、生活資金の融資制度を設けています。

ご不明な点は、お気軽にご相談ください。

【資金使途】 ろうきんローンエール（住宅･自動車･教育・育児・医療・介護・冠婚葬祭）
【融 資 額】 200万円以内（育児費用については、妊娠から小学校入学前までに要する費用）
【融資利率】 東海労働金庫の定める一般勤労者の貸付金利利率表の店頭表示率より、年0.3％引き下げた率

【融資対象者】
- 紀宝町に１年以上居住し、住民基本台帳に登録され、引き続き居住する方
- 前年度税込収入が150万円以上400万円以下の勤労者で、自営業でない方
- 未成年でない方
- 町税を完納している方
- 東海労働金庫の指定する保証機関の保証が受けられる方
- 東海労働金庫が定める要件を備えている方

▶詳しくは、東海労働金庫熊野支店（☎０１２０－１９－１８０３）までお問い合わせください。

01・08. 高台に避難する住民。**02・07.** 受付訓練。**03.** 脚立の取り扱い訓練。**04.** 応急担架による搬送訓練。**05.** 飯盛地区の訓練ではアマゴが振る舞われた。**06.** バールとジャッキを使用した救出訓練。**09.** 簡易トイレの設置。**10.** 多くの参加者が集まった鵜殿２組。**11.** アルファ米の炊き出し訓練。**12.** 輸送訓練。

～いざというとき役立つ防災情報～

地域の力で災害に備える

町内一斉防災訓練を実施

災害に強いまちを目指して

11月16日、町内全域で一斉防災訓練が行われ、計1,500人が参加しました。

この訓練は、発災時に適切な避難行動を取ることで、犠牲者ゼロを目指すことを目的に、自主防災組織が中心となり、各地区での災害リスクに合わせた訓練が行われ、炊き出し訓練、避難路の点検、避難所運営訓練などが実施されました。さらに、災害対策本部と各自主防災会との無線通信訓練や物資輸送の訓練も行われました。

取材を行った鵜殿２組では、午前9時30分の大津波警報発表のサイレンと同時に、昨年9月に供用を開始した津波避難タワーを目指し、地区住民が避難を開始しました。

参加者はそれぞれ、階段かスロープを使用して、津波避難タワーを駆け上っていました。

避難完了後は、津波避難タワーの避難スペースにおいて、設備や備品の使い方などが説明され、足を捻挫した人を想定した輸送訓練、プライバシーテントや簡易トイレの設置、アルファ米の炊き出し訓練などが行われました。

また、災害対策本部として開設されたまなびの郷では、スマホやドローンなどで撮影された訓練の映像がリアルタイムでスクリーンに映し出され、情報の収集を行いました。

今回の訓練を通じて、実践的な災害対応能力を高めるとともに、一人ひとりが自らの役割を再認識する機会となりました。